



2001年	発行	相原まちづくり協議会 広報委員会
3月27日	責任者	木下 眞
第9号	所在地	町田市相原町1241番地
	電話	042(774)8705

相原中央公園 「さくらの丘」 2月4日に植樹祭を開催



相原中央公園（現相原中央スポーツ広場）は、計画決定から長年に渡り、検討を重ねてきました。この間、多くの人たちの努力が実を結び、用地買収からいよいよ実施段階に入ってきました。公園の具体的な内容については、現在、町田市と相原中央公園建設促進委員会で協議しています。

公園促進のイベントとして2月4日（日）に相原中央公園「さくらの丘」植樹祭が実施されました。

植樹祭の場所は現スポーツ広場の奥で、相原連合町会、各子ども会、各種団体など450人が出席し、30本の桜を植えました。

これは、長年努力されてきた人々たちへの感謝と、未来を背負う子どもたちと桜を植えることをイベント化することで、相原中央公園がどんな公園かを理解していただくこと。相原の人たちに親しまれる公園づくりのスタートを記念し、早期実現をめざし計画したものです。将来、桜の名所として期待されます。

主催は相原中央公園建設促進委員会です。町田市の公園担当者の方々も多数の御参加もいただきました。当日は、寺田町田市長、牧田助役、地元市会議員にもご参加頂きました。

セレモニーのあと植樹をし、公園の広さを実感して頂くため公園の外周を300名余の人たちが40分ほどかけて歩きました。

参加者には、懇親を深めて頂く意味で甘酒や無洗米のおにぎりなどを味わってもらいました。当日は、アンケートを約300名の方にお願しいし、貴重なご意見を頂きました。

町田市は、地元の要望を聞いて具体的な設計にとり入れる姿勢を明言しています。皆様の積極的なご要望をお寄せ下さい。2面に促進委員会の要望事項を例示してあります。なお、ご連絡は建設促進委員会の委員長 青木照夫 772-3064までお寄せ下さい。



相原中央公園 計画への

要望事項

みぎさんのご意見も採用されるかもしれません!

相原中央公園促進委員会では、相原の人たちの要望する公園を作ろうと提案を行っております。

皆様が要望すること気になることがありましたらご遠慮なく提案してください。

今、検討されている基本的なことは以下のような点です。

- A 良好な自然環境を保全する
- B 公園としての機能を確保
- C 運動施設の確保
- D 教育・文化施設の併設
- E 相原全体のイベント可能なスペース
- F 公園のコンセプトの啓発

具体的な例は

- ・雨水対策としての遊水池（駐車場への利用）
- ・せせらぎと噴水、舗装しない遊歩道
- ・太陽光や風力利用の自然エネルギー発電
- ・花時計やシンボルタワー
- ・相原の郷土民具の展示
- ・埋蔵文化財の展示
- ・イベント広場
- ・野外演奏や芝居の出来るステージ
- ・放送設備とベンチ観客席
- ・照明電源装置などです。

駅舎橋上化の工事は 秋から開始へ

工事用道路を西側線路沿いに建設

例年開催される寺田市長と相原連合町会などの市政懇談会が、11月2日堺市民センターで開催されました。この中で、相原駅舎橋上化や駅周辺の開発について「駅の工事は平成13年秋から始まる」「工事用道路を西側線路沿いに建設します」など、以下の点が明らかになりました。

質問：相原駅舎橋上化の工事に伴い、工事用の道路がどの部分に作られるのか。

山崎・町田市建設部次長：取り付け道路は西側線路沿いの水路に蓋掛けをして6mの道路を確保します。現在の線路ぎわの西口自転車置場を東口側に移し、空いた部分を2m巾確保し歩行者用道路とします。新駅舎について、10月に自治省の承認が下りたので、実施設計に入り、平成13年秋から工事が始まります。大戸踏切は「はまかいじ」の特急が通るため、踏切閉鎖時間が2分以上かかるので、10月始めに、所管の横浜支所へ出向いて、改善を依頼しました。JRは踏切を減らす方向なので、別の場所に踏切を作ることは、大変難しい。

質問：相原駅西口と区画整理の関係について、どうか。

青木・町田市都市緑政部長：区画整理は現況測量のA調査から面的な整備を検討するB調査を経て実施設計に入ります。現在、A調査の測量が7割終了しているが、残り3割の方からは未だ立ち入りさせてもらえません。今後は、A調査を更に進めていくと共に調査の終了した地域住民の皆さんと区画整理について話し合いをしていきたい。

法政大学 7000人、東京家政学院大 3000人、造形大学1000人以上の学生たちが毎日相原駅を利用している文教地区です。相原が八王子・相模原・橋本などと商業間の争いをするのはどうなのか疑問に思います。駅周辺は雨の日などいつも送り迎える車でごった返しており事故も起きている。区画整理を待てない状況から駅西側の地主である興和不動産に借地を申し入れています。話が進めば送迎車が回転出来るように道路を作る予定です。

懇談会で寺田市長 語る

11月2日の恒例の市長懇談会で、寺田市長は、「自然を活かしたまちづくりを進めたい」など以下のように語りました。

現在、小子高齢化が進むなかで国や各自自治体とも大変な借金を抱えている。経済成長が当分望めない状況では、環境や福祉問題等について、共に考え知恵を出し合っていくことが求められています。市としては、介護保険関係、子育て支援問題等に財政的に力を入れています。子育ての支援では、入園待ちの状況を解消するために保育施設を3ヶ年計画で整備していて、先般、武蔵岡にも保育所を開設致しました。高齢者問題と併せて、今後、特に子供の問題に力点を置いた施策を採っていく予定です。相原の場合はまだまだ自然に恵まれているので、可能な限り今の自然を保全しながら住みやすい利便性を備えた快適な「まちづくり」をしていく必要があると思っています。相原には、法政大学や家政学院大学が立地しており文教の町になりつつある。できればその特性を生かした地域にしていきたいと思っています。

<「JR横浜線100周年を祝って、沿線の全駅を巻き込んだ一大イベントをやりたい。このため、蒸気機関車を走らせ、市からJRへお願いして頂きたい」の質問に>

市政50周年とも重なる時期で、個人的には沿線の市長サミット会議のようなものを開いてイベントをやりたいと思っています。蒸気機関車を走らせるには相当路盤が強くなければならない。

第3回 まちづくり講演会 を開催!

サトウ・マコト氏の「相原駅100年を語る」

相原まちづくり協議会は10月15日(日)に、堺市民センターで相原駅に関する講演会とシンポジウムを開きました。第1部は鉄道作家のサトウマコト氏を講師に招き、「相原駅100年を語る」を聞きました。



サトウ・マコト氏の講演は以下の通りです。私は「横浜線物語」を書いたこと、現在「相模線物語」を執筆しているなどから、相原のことを勉強する機会がありました。このため、この周辺を歩いたり、多くの人に会ったり、

古い資料を探したりしています。

横浜線は、明治41年9月23日に開通しました。長野、山梨、群馬などで生産された生糸が八王子に集まったので、それを横浜港まで運ぶために、鉄道が必要でした。当時、鉄道を必要としていた地域は、自分たちでお金を出し合って新設していました。スタートした時は、私鉄です。その資金は横浜の生糸業者、沿線の住民でした。

横浜線の建設は明治28年に申請しました。しかし、なかなか許可が出ません。当時の政府は、富国強兵制度をとっており、そのため、鉄道が必要で、日本中の幹線など大事なラインは国有以外は認めませんでした。このため、私鉄の許可には相当の時間がかかりました。横浜線も、5度目の申請で許可されましたが、条件が付いていました。それは、国の必要性がある時は、国有化にするという一札でした。

横浜線が認可された背景は、当時、横浜の絹の商人は日本の経済を左右するほどの力を持っていたこと、八王子ー横浜を結べば、戦時体制になったときに、物流にとって便利であること、などでした。

横浜線は開通2年後に、車両と駅は私鉄が所有していましたが、業務は鉄道院(国鉄の前身)に委託することになります。さらに大正6年に国が買い上げ、国有化になります。大正時代の時刻表で見ると、横浜線に走っていたのは1日7本程度です。路線の周辺が田園だったため、お客はあまりありませんでした。沿線の人が多かったのは、八

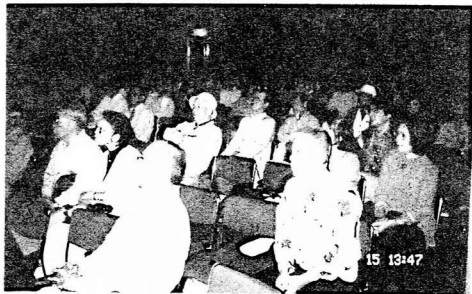
王子駅、原町田駅、東神奈川周辺くらいでした。昭和16年に電化した、昭和63年に全面、複線化になりました。開通した当時、相原駅は橋本駅よりも荷物が圧倒的多かったのです。それは、奥の津久井郡から薪(まき)、炭、木材の搬出が相原駅に集まっていたからです。つまり、相原駅の方が大きかったのです。

橋本駅は当初計画になく、地元の要望でできた請願駅でした。このため、開通にあたって大きなお祝いをしていますが、相原駅は盛大な開通祝いをしていません。明治41年に開通したときに、4ページの新聞が発行され、その中に沿線案内があります。横浜線は9つの駅だったため、駅から遠方のところも紹介しており、相原駅では、津久井郡の名所などが紹介されています。

幻の南津鉄道

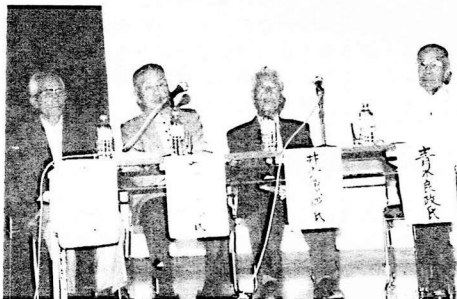
相原の鉄道にに関する事で、もう1つ、大きな話題は大正から昭和にかけて計画された南津(なんしん)電気鉄道構想です。南津鉄道は聖蹟桜ヶ丘ー鎌水ー相原ー津久井を結ぶ路線です。終点が津久井の久保沢で、現在、信用金庫の支店、酒屋がありますが、そこが終着駅の予定でした。大正15年に鉄道の認可があり、南津鉄道株式会社も設立され、昭和3年には川尻村と由木村鎌水で起工式まで実施しています。すでに相原と鎌水の間は新線のレールまで引きました。つまり、実施直前になって、「幻」になってしまったのです。

この原因は、昭和2年、4年にあった昭和恐慌によって資金が集まらなくなったからです。とくに、生糸価格が一晩で3分の1になってしまうなど、国際価格の暴落は、周辺の養蚕農家や生糸業者に大きな打撃を与えました。輸出も止まり、自殺する人も出るほどでした。結局、挫折してしまいました。現在、南津鉄道構想の記念碑は何もありません。わずかに、鎌水のあるお宅の裏庭に鉄道をひくために削ったところが、残っています。また、鎌水に「絹の道入口」というところがありますが、そこに「御大典記念碑」(鎌水停車場)とあるのはその名残りです。



大正、昭和初期の相原駅の思い出

第2部は島崎（相原まちづくり協議会）の司会で「大正、昭和の相原駅を語る」シンポジウムを開きました。出席者は昭和5年相原小学校を卒業した青木良政さん（仲町）、井上留次郎さん（陽田）、昭和10年卒業の吉川甲子郎さん（境）、青木佐巡さん（陽田）の4氏に、当時の思い出を語ってもらいました。



「線路ができる前は道路が6本あったが、鉄道で遮断され1本になりました。このため、学校の行き帰りなどは線路を越えて行くことが多かった」「駅前現在の駐輪場のところは、昔、駅長、助役の官舎がありました。駅前に人力車が2台ありました。駅は広い貨物のホームがあり、大八車で木を運び、町田街道の踏切のところまで貨物の貨車が入っていました」「駅の周りが小学生の遊び場でした。商店街の駅寄りのところは荷物の集積所でした。貨物は木材、砂、砂利、肥料が多くありました。肥料は小魚の乾燥した物もあり、食べたこともあります。冬はそこでたこ揚げしたこともあります」「小学校の時、帰りに、線路のトンネルの中で度胸試しをしました」「横浜線があっても、運賃が高かったので、八王子の火花大会を見に行くとき歩いていきました。相原一八王子の運賃が10銭でしたが、10銭あれば、大きい大福餅が6個買えました」などそれぞれ当時の思い出を語りました。



相原まちづくり協議会は11町会の皆さんが会員です。各町会から推薦された理事・監事で運営しています。

講演会のアンケート結果

講演会の出席者に講演の感想などアンケート調査を行いました。多くの意見がありました。

今後の講演テーマでは「相原と類似した地域のまちづくりの経験」「まちづくりのノウハウを題材に」「自然環境保護」「相原町の将来展望」「相原改善会について」「相原の自然」「相原の歴史」「高齢者問題一地域での対策の方向」「駅周辺の開発」などです。

また、まちづくりについて「大雨の後、排水があふれることがあるが、生活基盤の整備に取り組んで欲しい」「相原のバス発着場を駅前にして欲しい」「駅周辺での買い物やバスの乗り入れに便利にして欲しい」「美しい自然を大事に残して欲しい」「学園都市として学生がお茶を飲み、楽しく語り合う場所が必要です」など多くの意見がありました。これらの意見について、今後、まちづくり協議会の活動に生かしていきます。

会津若松市 七日町と、 大内宿のまちづくりを見学

相原まちづくり協議会は、11月5～6日にまちづくりの先進地として、福島県下郷町の大内宿と会津若松市を見学しました。会津若松市では商工会議所で市全体のまちづくりの取り組みについての説明を聞いたあと、七日町を見学しました。七日町は、住民が自主的に運動を展開して、成功した事例です。相原町のまちづくりに参考になる内容でした。以下、見学報告です。

<会津若松市七日町>

会津若松市は鶴ヶ城と飯盛山が観光地で、それ以外は人通りが毎年少なくなっています。中心地の七日町は道路（国道）の両側に並ぶ店はお客が来ないため、多くが閉店状況で、シャッターが降りていて、シャッター通りと呼ばれるほど疲弊した街になっていました。

高齢の経営者が亡くなると、後継者もいないため、取り壊して、駐車場にするところが多くなりました。次第に家屋がなくなっていくと、隣の街が見えるようになり、このままでは、街が無くなってしまふとの危機感を持つようになりました。

5年前に、七日町の若手経営者3人でまちづくりの草の根運動に取り組みました。行政は動いてくれない。自ら町の実態調査をしたり、先進地の見学も行き、学者など多くの人の意見も聞きました。

そのリーダーである、まちづくりネットワーク会議長の洪川恵男氏（大正浪漫「洪川問屋」を経

営)に会って、取り組み状況を聞くことができました。渋川氏によると、少子化で人口は今後ますます少なくなるが、このような中で、お客を増やすのは、どうすればよいか、真剣に話し合ったといっています。旅行者などの交流人口は確実に増えています。移動すると経済効果があるので、この人たちに七日町へ来てもらうのにどうしたらよいか、考えたといっています。人が旅行などで動くのは、自分の周囲と違う文化、非日常的なものに触れたいからではないでしょうか。

七日町で他と違った文化とは何か。戊辰戦争で破壊された会津若松市は明治以降、商人によって繁栄してきました。特に七日町は問屋街として、明治、大正、昭和と商人文化を開花させてきた。繁栄した当時の明治、大正、昭和の建物が残っているところもあるので、それらを改修して、スポットライトを当て、宣伝することになりました。空き店舗も当時の雰囲気を再現するように改築しました。昔からの店舗、蔵の活用、洋館建ての三種類に分けて、まちづくりに取り組みました。街は和風の建物が多く、明治、大正の雰囲気をかもし出しています。

この結果、これまで七日町に観光客はゼロだったが、現在では年間10万～15万人来るようになりました。渋川氏たちの呼びかけに応じて、店を改築する人も増えてきました。渋川氏は「まだ始まったばかりだが、今後はさらに盛り上げていきたい」とまちづくりの手ごたえに自信を深めているようです。

七日町の実験と同じ発想で相原町を考えると、まちづくりの多くの夢が描けるのではないのでしょうか。



＜下郷町の大内宿＞

大内宿は、江戸時代に栃木県今市と会津若松を結ぶ重要な街道（下野街道）で参勤交代の宿場町として栄えました。しかし、明治以降、鉄道も国道も遠く離れ、人影も途絶え、寒村になっていました。

戦後、この大内宿を昔の面影を残す貴重な文化財として守ろうとの運動が展開されました。昭和59年に大内宿本陣跡に宿駅時代の本陣が復元され、街並みが残っていたため、大内宿として国の重要

伝統建造物群保存地区に指定されました。

大内宿の家並みは、江戸時代から明治までに建築されたと推定できるものが31戸です。各家は道路に面して半切妻屋根で、小屋組みは寄せ棟造り、屋根はかやぶきに統一されていたものが、現存しています。当時の状況に復元している物もあり、その多くは軒先を利用し地元物産を販売する店になっています。道路は、じゃり道のままで舗装はされておらず、電線は地中埋設され、ポストも木製であるなど細かい配慮がなされています。江戸時代に迷い込んだような錯覚に陥ります。観光客は、毎年増加しています。

一方、今日のノスタルジー・ブームで、素朴さを求めてこの地を訪れる旅人も観光化されたこの宿場を目にし、大内宿ならぬ、これでは原宿ではないかと失望されるのではないかと心配もあります。馬籠・妻籠、飛騨の高山や富山の五箇山とは趣をことにしますので、ご自分の目で確かめられることをお勧めします。また、近くには湯の上温泉駅がありますが、これは日本で唯一のかやぶき屋根の駅舎とのこと、ご参考まで

相原の「子どもセンター」に みんなの夢を

子どもセンターがそう遠くない時期に相原に出来ます。名前はまだありません。運営の仕方も決まっています。建物は町田市が造ってくれますが、中身と運営は私たち地元の子どもと母親とお父さんのアイデアと熱意に委ねられています。

先に活動を始めた南地区の「ばあん」では、高校生・中学生を含めた子どもたちのアイデアと母親たちの協力で、羨ましいくらい活発な毎日だそうです。

相原にできたら、子どもたちの発想と夢、若い人たちの創意・工夫で運営したいと考えます。

幸いにも地元周辺には、法政大、東京家政学院大、東京造形大、東京工科大、多摩美術大と多くの大学があります。これらの大学には、児童心理学や体育学や美術そして近未来の科学と素晴らしい宝庫となっています。大学の協力や、大学生たちのボランティアにも期待させてもらいます。

さすが相原の「子どもセンター」と云われるような運営を考えましょう。

具体的には行動を開始します。青少年健全育成相原地区委員会の皆さんを中心に、ジュニアリーダーの現役、先輩の力で準備にはいりました。

第一号館の見学と運営者とのシンポジウムも参加しました。新年度と共に町全体による推進団体の設立、各大学との意見交換、運営カリキュラムの検討を計画していく予定です。若い皆さんの積極的参加期待しています。

21世紀!

相原の「まち」は?

新しい世紀の相原に、皆さんのアイデアを

相原町の21世紀を考えると、今迄の100年は、明治中期の経済的に苦難な村を先輩たちの叡智と工夫で、みどり豊かな自然を守り続けてこられた成果でした。明治34年(1901年)当時、概算400戸2000人の人たちの息吹を引き継ぎ、この優しい町も今、次の新しい扉を開こうとしています。面積はあまり変わらずに世帯数は10倍以上の町になりました。

この町には、欲しいものが沢山あります。残さなければいけない物もたくさんあります。でも大切なものは、「人の心と身体の健康」です。相原の素晴らしさは、この点に希望の持てる町だということなのです。

施設の計画は、今、話題に上がっているだけでも、スポーツも楽しめるみどり溢れる相原中央公園や、子供たちと若い親たちのアイデア盛り沢山、夢いっぱいの子どもセンター、身体の不自由なご老人たちの食事とお風呂の介護支援センター、そして、町民の誰もが泳げるプール(塚中体育館改修)などのほか、相原駅の橋上化等と、新世紀初めの10年は忙しそうです。

町に生活する人たちの交流、協力による花いっぱいの運動、通過車両増大による排気ガス追放、生活ゴミのリサイクル化等の環境浄化問題もあります。

魚と遊べる河川への改修、下水道設備の促進等、自分たちで参加・解決する手法(手段)による、夢を忘れない21世紀の「まちづくり」は、これから始まります。

一つの動きとして、町田市を流れる二つの川、鶴見川と境川の源流域をつなぐ散策路の創出があります。

旧鶴川村、忠生村、塚村の史蹟と自然を尋ねるウォーキング交流と、エコミュージアム(屋根のない博物館)の推進。相原駅を始点とし「かたらいの道」を経由して東海遊歩道へ繋ぐ「道の駅」、さらに「街の駅」の誘致の必要性があります。

新しい観点からの、観光地ではない観光資源の開発を考えることも重要です。

次に、最近の企業や学校の体育関連部門消極化に伴ない、地域単位の総合スポーツクラブの結成で、地域スポーツの指導者と女性の組織化も必要になります。幸いに相原中央公園の建設は頼もしいことです。三番目はみどり豊かなまちに、きれいな空気と、旨いものが食べられる飲食店や漸新

的な街のファッションの溢れる専門店による商業活性化等、やることはいっぱいあります。

これらを進めるための大きな課題は、道路交通対策の具体的な促進です。慢性的な渋滞と通過車両回避のための道路拡幅と周辺地域への迂回路設定等、性を要するものばかりです。

さらには、夢に近いが新しい交通機関としての路面電車が戸から橋本、または、多摩境に繋がれば楽しいですね。

20世紀の中頃に生まれた人たちが、「優しいまち・相原」の作り手です。これからの若者に期待するのも当然ですが、中年のあなたも私達の指導者です。大きな活躍を期待します。「住んでいて良かった・相原」をめざしましょう。

自ら、協力や参加、討議して行動することが、21世紀のまちづくりへの第一歩です。

傘のご寄贈 ありがとう

借りた方は必ずご返却を!

相原まちづくり協議会(JAO会)は相原駅での無料貸し傘を、昨年、7月20日に開始しましたところ、利用者の方々に大変喜ばれています。中には新調の傘数本と自前のものを合わせて10本を超す傘をご寄贈して下さい方もありました。関係者一同大変感激しております。ご寄贈戴きました皆様には紙面に厚くお礼申し上げます。お預かりした傘には傘の愛称「かえる傘」のシールを貼るため、すぐに傘立てには入れられませんのでご了承下さい。11月25日に20本補充させて頂きました。借りた方は大切に利用して、ご利用後、元の場所に必ず返して下さい。

傘 募集中

引き続き募集を継続していますので、ご家庭で余っている傘がありましたら、ご寄贈下さい。

毎週、月木に相原まちづくり相談所

(電話774-8705 いなげや駐車場横)

第3次募集は4月26日までです。維持管理は相原まちづくりの協議会の中のJAO会が運営しています。

なお、傘を寄贈して下さいの方々のお名前は以下の通りです。御協力ありがとうございます御座います。

青木照夫様	中島千草様	佐藤みどり様
吉川良助様	桐生明敬様	大島 大様
橋本 久様	藤田幸義様	清水昭和様
岸千恵子様	伊藤 勉	今村忠司

JAO会は2つの活動を行っています。

<相原JA O (ジャオ) 会>

これまで培ってきた特技や技術などを生かして、地域の人たちが交流する場として、JA O会が発足し、毎回参加者が増えています。地域に貢献しながら自ら楽しんでいただき、会則・会費なしの気楽な会です。会名の「ジャオ」は「おやじ」を逆に読んだものです。

JA O会は毎月第3木曜日午後1時30分から、相原まちづくり相談所（いなげや駐車場隣）で定例会を開いています。初めての方でも、お気軽に参加して下さい。現在、JA O会は下記の2つの活動を行っています。一つは相原の歴史や自然を探求する「相原を学ぶ隗」と「竹炭焼きの会」です。

シリーズ

相原あれこれ、今むかし

境川 (1)

境川は、むかし高座川（たかくらがわ）或い 田倉川（たくらがわ）と呼ばれていました。このことを記した碑が、相原八幡宮の境内と私たちの町にもあります。徳川家康の江戸入り直後の、文禄三年（1594年）代官頭彦坂小刑部元正による検地のとき、武蔵・相模の国境をそれまでの多摩丘陵の尾根からこの川筋に移し、川の名も「境川」と変えられたのです。戦国時代まで川をはさんで、ひとつの粟飯原（あいばら）村であったのが上相原村（現在の相模原市）と下相原村（町田市）になったのです。このため今でも、川の両側に相原が向きあっています。小山、矢部、鶴間などでも境川の両岸に同名があります。行政による強制的分割が400年後の私たちの日常生活に大きな影響を与えています。（相原を学ぶ隗）

2年目の竹炭焼きの準備をしています

1999年の秋から町田市シルバー人材センターの若杉幸生さんの指導で取り組んだ竹炭焼きは、2シーズン目を迎えました。前回の経験を生かして十分に材料を用意し、新たに炭焼きの準備をしています。今回も大戸の吉沢政孝さんから竹を提供してもらい、12月18日に竹を切りました。1月に第1回目の竹詰め、火入れ、炭出しを行いました。2月3月にも6回の作業を実施しました。

そこで生産された竹炭と竹酢液は、「源流炭」との名称をつけ、袋詰め、瓶詰めにして、今年も「大池沢祭り」や「夢広場」で販売することにし

ています。

炭焼きの時期を迎え、会員の皆さんおおいに張り切っています。できれば、ドラム缶の窯でなく、本窯を作り、定期的に炭焼きができればと考えています。「竹炭焼きの会」の責任者は本徳巨良（電話782-6968）です。

「ソルボ」会を発足

JA O会を発足させて間もない頃、JA O会にはなぜ女性は入れないのですかと問い合わせがありました。JA O会は「じゃお」おやじを逆に読んだもので男の会なんです。ということで女性の会「ソルボ会」を作りました。ソルボとは、スペイン語でおふくろのことをボルソというので、それを逆にただけです。この会は主に「絵でがみ」を楽しく描いています。相原まちづくり相談所（いなげや駐車場隣）で毎月第4木曜日に行っています。初めての方でも、お気軽に参加して下さい。ただし、有料です。

高齢者介護支援センターを 大戸に建設へ

介護保険制度の開始にともない、昼食や入浴のできるデイサービスの対象施設を大戸に建設することになりました。市長懇談会で岡部・町田市保険介護推進担当部長は「大戸に建設したい」と明言する一方、「民間活力を導入して地域が中心となっていくことが重要です。大戸には老人の会食をしている組織「山ゆり会」があり、この会が母胎となって進めてもらいます。また、法政大学で4月に新設された、現代福祉学部の学部長から経営のノウハウ、知識を提供するとの申し出を受けています」と語っています。昨年末から「仮称相原高齢者在宅サービスセンター 基本構想検討会」が開催され地元町民、法政大学、二つの養護施設町田市の参加で具体的な提案をしました。平成15年開設を目標に行動も活発になっています。

ご存知でしたか？

CATV が相原に進出！

橋本地区の高層ビル化と相原小山ニュータウンの開発に伴ない、境町会地区の周辺は、電波障害が発生、TV視聴に影響を受けています。そこで町田ケーブルテレビ（小田急CATV）の導入を計画。各戸負担を極力少なくしようと受信障害対策委員会の懸命の努力で現実化し、暮れの紅白歌合戦も鮮明なテレビでお正月が迎えられました。

CATVの導入により、インターネットの回線利用が併用できるため、境地域のIT化も一歩進みます。

NPO 夢連だより

11月の11・12日、平成11年に続き、第2回のも摩のよこやま道まつりが行われました。両日で、200余名の参加者があり、相原駅からラッテまでの山道を歩き、ネイチャーゲームやドラム缶ビザなどを楽しみ、東京家政学院大の学園祭KVA祭にも参加して秋の青空を満喫しました。

また、桜美林大学公開講座で12人の方が、道まつのボランティアガイドの資格を取られ、3月から歴史と自然の道案内が実現します。

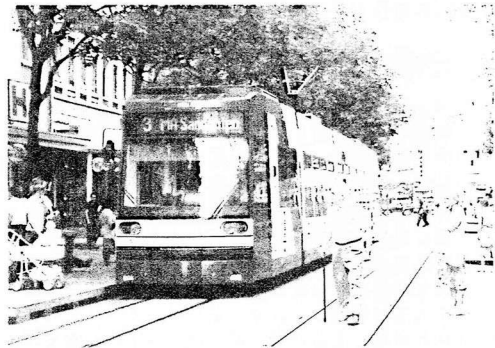
夢連では、相原中心のホームページを開設しています。まだ、試行段階ですが皆さんのご協力に期待しています。アドレスは

<http://www.ops.dti.ne.jp/~tomoken>
に変更しました。

相原町縦断 路面電車の話

昨年の市長懇談会の席で、寺田市長に質問をしました。夢の話として、大戸・法政大学・家政学院大学から、町田街道を相原駅か橋本駅まで路面電車(LRT)を敷設したらどうかと質問したら、市長もモノレールや路面電車について研究されているようで、道幅や道路環境との点で難しそうだとの回答がありました。が、国内の各都市で検討されているLRTが、もし相原で走ったら!と夢を承知で調べてみました。

●LRTとはLight Rail Transitの略称で直訳すると、「軽鉄道交通」とでもなりましょうか。我が国では「軽快電車/ライトレール」と呼びます。



「路面電車」は、時代遅れの過去の乗り物といわれていましたが、今、世界各地で「ライトレールトランジット」として再生しようとしています。これは単なるノスタルジーではなく、路面電車がこれからの時代のニーズにマッチした新しい都市交通システムとして再評価されているからです。

考えられる問題点はいろいろありますが、ひとつには、魅力のある街への有効手段になり得るか、バスに勝る公共交通手段になるかが問われます。道路整備状況はどうするか、どのようなコースにするかも大きな検討課題です。

パーク・アンド・ライドの導入は可能か。地域高齢者のための低床コミュニティLRTの車両導入や、相模原市との中核都市におけるトータル的な交通体系を考えると、大変な事業とは思いますが、環境浄化の一助にもなり得ます。路面電車の建設費は、敷設する道路状態によって異なるとは思われますが、概算で1km当たり5億円~30億円と言われている。もし、相原に計画すればせいぜい50億円以下?町田市の新市庁舎建設費より安いかも、そう減茶苦茶な話でもないんです。単線で4m幅の線路です。16m幅の道路で敷設可能です。相原町民と法政大学や東京家政学院大学の通学利用で1日当たり15000人利用も可能です。環境に配慮した公共交通システム・路面電車(LRT)の市内運行を実現させる「まちだ路面電車の会」も発足しました。相原からも数名参加し、都のコンサルタントも相原地区の可能性に興味を寄せてくれましたので、実験線としての相原線実現を提案しておきました。

みどりをバックに赤いLRTの走る街を1日も速く実現したいものです。

編集後記

21世紀を迎えての発行です。第8号では相原に計画されている施設や建造物の状況を掲載し、皆さんと共に、より良い「まちづくり」ができればと考えています。協議会は町会や自治会から選出された理事・幹事により活動しています。多くの方々のご意見ご要望が行政に反映されるよう情報の提供をしてきたいと思い、編集スタッフ一同今年も張り切っています。皆さんのご意見・アイデアをお聞かせ下さい。年4回発行の意気込みでしたが2回になってしまいました。

(島、須、横、今)